

N-8 慢性呼吸不全における非侵襲的陽圧呼吸法中のマスクの検討

新日鐵八幡記念病院看護部、集中治療部¹

林真理、青木睦美、田尾朗子、海塚安郎¹

【はじめに】当院ではH4年より呼吸不全に対し非侵襲的陽圧呼吸法（NIPPV；noninvasive positive pressure ventilation）を施行し、その開始時には基本的に顔マスクを使用している。H8年からH11年の当ICUにおける症例数は125例であり、その内訳は、急性呼吸不全101例、慢性呼吸不全24例であった。しかし、慢性呼吸不全では使用が長期化し問題が発生しやすく、顔マスクでは継続できず鼻マスクへ変更した症例が約半数いた。

【目的】NIPPV施行中に顔マスクから鼻マスクへ変更した患者の状態および問題点について検討する。

【対象】H8年からH11年にNIPPVを施行した125例中、顔マスクから鼻マスクへ変更した慢性呼吸不全患者12例。

【方法】カルテ、ICU看護記録から調査する。NIPPVにはBiPAP（米国レスピロニクス社製）を使用した。

【結果】1、意識レベル(Jpan Coma Scale):0(6例)、I-1(2例)、I-2(3例)、I-3(1例)。

2、鼻マスクへ変更理由(重複):顔マスクによる圧迫感・不快感9例。喀痰困難、挿管拒否、口渴各2例。吞気、嘔気、皮膚の発赤、眼球の充血各1例。

3、NIPPV継続時間:顔マスク時:7.8±5.88(1~20時間)、鼻マスク移行後:43.2±43.40(5~144時間)

4、血液ガス分析値

	PH	PCO ₂ mmHg	PO ₂ mmHg	BE
顔マスク時 (n=7)	7.272	83.0	66.2	7.8
	± 0.058	± 11.30	± 13.68	± 4.80
鼻マスク移行後 (n=6)	7.335	73.3	62.6	8.4
	± 0.101	± 26.92	± 9.67	± 6.98

5、予後：気管内挿管への移行なく全例一般病棟へ転出した。

【考察】慢性呼吸不全でNIPPVを施行中、顔マスクから鼻マスクへ変更した患者は、①全例意識が比較的良好であった。②顔マスクによる圧迫感・不快感の訴えが多かった。③その訴えの多くは顔マスク使用開始から約半日過ぎた頃からであった。以上から、慢性呼吸不全患者の顔マスクの使用は半日を目安とし、患者が嫌がる前に医療者側からマスクの変更をすすめるのも継続への一つの手段となる。鼻マスクへ変更後、①NIPPVの施行時間が大幅に延びた。②マスク変更後も血液ガス値の変動は大差なかった。③全例とも気管内挿管が回避でき一般病棟へ転出できた。以上のことからマスクを変更することでNIPPVの継続が可能となると言える。

【結語】NIPPVの施行が長期(1日以上)にわたる可能性のある患者にとって、マスクの変更はNIPPVの継続に有効である。